

【A年】

聖霊降臨後第二十三主日

特定二十七

全能の神よ、何もかもあなたの支配に逆らうことはできません。どうかこの世の変動の中においても、常にみ国の到来とみ心の成就を望み、確かな信仰をもってひたすら主に仕えさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はアモス書第五章十八節から」

18 災いだ、主の日を待ち望む者は。

主の日はお前たちにとって何か。

それは闇であって、光ではない。  
19 人が獅子の前から逃れても熊に会い  
家にたどりついてても

壁に手で寄りかかると

その手を蛇にかまれるようなものだ。

20 主の日は闇であって、光ではない。

暗闇であって、輝きではない。

21 わたしはお前たちの祭りを憎み、退ける。

祭りの献げ物の香りも喜ばない。

22 たとえ、焼き尽くす献げ物をわたしにささげても  
穀物の献げ物をささげても

わたしは受け入れず

肥えた動物の献げ物も顧みない。

23 お前たちの騒がしい歌をわたしから遠ざけよ。

堅琴の音もわたしは聞かない。

24 正義を洪水のように

恵みの業を大河のように

尽きることなく流れさせよ。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

## 第七十編

- 1 神よ、救いに来てください＝ 主よ、急いでわたしを助けてください
- 2 わたしの命をねらう者は恥をさらし＝ 災いを喜ぶ者は見捨てられて恥を受ける
- 3 「それ見たことか」とあざける者は＝ 恥をさらして退く
- 4 あなたを求めらるすべての人はあなたのうちにあつて喜ぶ楽しみ＝ 救いを尊ぶ人は「神は偉大な方」といふもたたえる
- 5 わたしは弱く貧しい者＝ 神よ、わたしのもとに急いでください
- 6 あなたはわたしの助け、また救い＝ 主よ、ためらわな

### 使徒書

朗読者 「使徒書はテサロニケの信徒への手紙Ⅰ 第四章 十二節から」

13 兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次の

ことを知っておいてほしい。14 イエスが死んで復活されたとき、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいます。

15 主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありません。16 すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、17 それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。18 です。今述べた言葉によって励まし合いなさい。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

（二）で聖歌を歌う。

### 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第二十五章 一節以下に記された主イエス・キリストの福音。 主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」

1 「そこで、天の国は次のようにたとえられる。十人のおとめがそれぞれともし火を持って、花婿を迎えに出て行く。2 そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。3 愚かなおとめたちは、ともし火は持っていたが、油の用意をしていなかった。4 賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。5 ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。6 真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声があった。7 そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。8 愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』9 賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店に行つて、自分の分を買つて来なさい。』10 愚かなおとめたちが買いに行つている間に、花婿が到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。11 その後で、ほかのおとめたちも来て、『御主人様、御主人様、開けてください』と言った。12 しかし主人は、『はつきり言っておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。13 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」